

都市生活生協支援 第17号

救援ニュース

1995.9.19

都市生活現地救援本部
西宮市津門西口町7-3
電話：0798-36-6679

ふれあい共生塾 スタート

～10月13日（金）開講予定～

「地域復興活動を通して大震災からの再生を」と生協都市生活では救援活動を行ってきました。地域復興活動は最も被災度合いの高い人達への救援を中心におこなっています。

今後の地域復興活動は《地域づくり》を視野に入れたものへの広がりが求められています。《地域づくり》の基本は“人と人の関係づくり”に他なりません。わたしたちの地域にはさまざまな人達が暮らしています。どんな人とも仲良くなり、話し合いができ、互いの考えを理解することから関係づくりから始まります。

ふれあい共生塾は地域のどんな人とも仲良くなるための開かれた空間です。
(救援本部事務局)

ハンダール会話講座・塾生募集！！

韓国、朝鮮の人たちと仲良くなるための会話講座です。

10月13日開講予定

講師：生協都市生活組合員の池田さん（西宮市）

場所：生協都市生活組合員活動センター（現地救援本部兼用）
JR西宮、阪神西宮東口から徒歩数分、阪急今津から徒歩15分

日時：昼のコース＝毎週金曜日 am 10:00～12:00
夜のコース＝毎週火曜日 pm 7:00～8:30

費用：月（4回）＝2,000円（講師謝礼、施設管理費）
他に教材費（本一冊程度の負担あり）

- その他：
- ・入塾自由。組合員以外の一般の方も参加できます。
 - ・いつからでもスタートできます。
 - ・都合で欠席しても次の学習に差し支えないような組み立てを進めます。
 - ・手作り韓国・朝鮮料理なども教えてもらえそうです。
 - ・将来は韓国・朝鮮へ“修学旅行”も予定したいですね。

手話講座・点字講座・中国語講座 開設を目指しています。組合員の方や、趣旨に賛同して下さるお知り合いをご紹介します。

お問い合わせ・申し込み先：生協都市生活ふれあい共生塾運営委員会（準）

TEL 0798-36-6679
(現地救援本部内)

♡現地救援本部♡ INFORMATION

♡仮設住宅交流お茶会♡

9月19日（火）

於：伊丹市クボタグランド仮設住宅
わらびもち、豆大福を用意します。

♡仮設住宅交流昼食会♡

9月28日（木）

於：西宮市内（場所未定）
カレーを用意して昼食会を行います。

♡「ふれあい95」♡

10月10日（祝）

於：
みのたにグリーンスポーツホテル
グランド
(詳細は2面に)

詳しくは現地救援本部

TEL 0798-36-6679

まで

現地救援本部新スタッフ紹介

癒し、癒されて

グリーンコープ連合

たかしよ まさゆき
高島 雅之

思えば、あの日職場のグリーンコープの熊本物流センターのパートさんを前にした朝礼で神戸の震災を知らされる。その日は断片的な情報のなかで、何か大変な様子らしいだけで、その後帰宅後はテレビの前で刻一刻と伝えられる惨禍を見続けた。

それはあのチェルノブイリ原発の事故の報道に接した時の記憶が蘇る重く息苦しい気分の中で、限りなく膨張する核開発と原発の行き着く先を警告した原発事故と共に、近代の都市で発生した地震の恐怖を伝え続けた。拡大を続ける都市は、多くの人達の生活と命を飲み込みながら崩壊と再生を繰り返す。その時おそらく10年の年月で起こることが一瞬のうちに、人間の思惑を越えてたち現れた。崩れ落ちた高速道路、高層建築、燃え広がる街並みに消火活動さえままならない状況の中で廃墟が広がっていく。

【2面へ続く】

【1面より続く】

チェルノブイリ原発事故によって、日々繰り返される平和な気分が実は限りなく続く戦争のただ中の眠りのなかの夢の気分過ぎなかつた事を気付かされた私たちは、この震災で何を気付かされるのだろう。埋め立て地に、整然と広がる仮設住宅を取り囲むように、工場群、倉庫が立ち並ぶ、そして工事用車両が土埃を舞あげていく。また、復興しつつある街並みもハウスメーカーの工場で作られ組み立てられていく。神戸の街並みが一見近代的ながらも、一様に同じ家々によつて埋め尽くされる。街並みはその生活の姿であり、文化であったはずなのに、ふたたび立ち上がる高速道路と高層建築が街を飲み込んでいく。

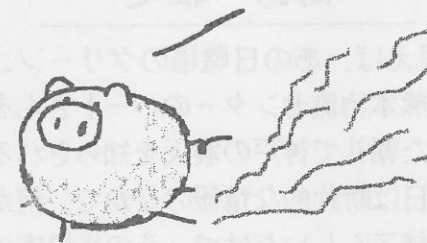
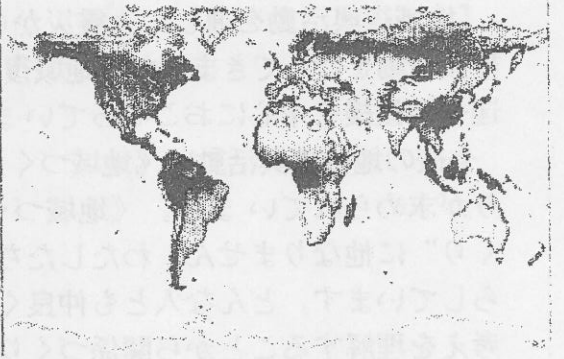
福岡の生活を離れ、家族で熊本の阿蘇に移り住んだものにとって、都市は決して

切り離されたものではなく、ますます密接にその関係が見えてきた。現在、ささやかであっても8反の農地を借り大地を癒し、また癒されている。そして、出来たものを福岡の友人達に食べてもらいつつ、援農等での交流は農村から発信するラブコールとなって、今後は宿泊しつつ生活を共有できる施設をと準備を進めている。

生協のような大きな力を持った組織ではなく、個人のネットワークで何ができるか、まさに神戸の震災を通して、多くのボランティアの人達が繰り広げた、命のネットワークに限りなく勇気づけられた者として、今後の神戸をはじめとする復興が、真に生活するものの立場より立案され、社会的弱者と言われる人々と共に生きる方向となることを心より願って

やみません。あわせて、今回取り組まれている生協間の連帯活動が今後どのように展開していくのか短期間の参加の中では、ただただ走り回っていただけ提案すべきものもありませんが、救援本部の自在の活躍と組合員の皆さんの生活に密着したきめ細かなしなやかな救援活動にエールを送りつつ熊本の地へ帰りたいと思います。皆様のご活躍を心より応援しています。

ガンバッテクダサイ！！



500人規模の大運動会

“ふれあい95” 10月10日に開催

みのたにグリーンスポーツホテルグランドで

10月10日(祝)、仮設住民とボランティアの交流を目的とした運動会、「ふれあい95」が、神戸市北区みのたにグリーンスポーツホテルグランドで午前10時から開かれます(神戸北ライオンズクラブ主催、社会福祉協議会、北区ボランティアネットワーク共催、雨天決行)。当日はバス6台をチャーターして北区内の仮設住民を送迎し、各種競技が行われるほか、警察音楽隊による演奏、地元小学生による和太鼓などが演じられ、屋台

も出店されます。

都市生活生協ではいなり寿司と牛乳試飲の屋台を出す予定です。組合員の皆さん、ふるってご参加ください。

なお、詳しいことは現地救援本部までお問い合わせください。

TEL 0798-36-6679

仮設住宅《ふれあいセンター》にパステル画を寄贈

♡♡♡♡一枚の絵に励ましのエールを込めて♡♡♡♡

山形県米沢市に住む一人の市民とその知人の画家、画材商から300枚のパステル画が現地救援本部に届けられました。風景、人物、静物などが描かれています。仮設住宅ふれあいセンターに掲げてほしいとの意志を受け、8月末にまず東灘区の仮設住宅ふれあいセンター開設式に参加し、寄贈しました。

震災直後、山形県の米沢生協では広く市民に呼びかけて『ボランティア山形』を結成、63人の市民が応募し、以降4回にわたって43人が神戸で救援活動に

参加されました。登録しながらも救援活動に行けなかつた布施光津子さんは、知人で画家の前田春治さんのパステル画を贈ることを考えられました。布施さんご自身が、かつて一枚の絵に心と励まされた経験をお持ちだったからです。被災者の一枚の絵で元気を取り戻されれば、との願いが込められています。

布施さんの気持ちに応えようと前田画伯自ら絵画を選定され、布施さんはご家族に内緒で保険を解約して額の費用を負担されました。画材商『美芸社』の小笠

原さんは、額の中に入れる『紙マット』を無償提供されました。『ボランティア山形』事務局では、石けん使用運動で協同組合石けん運動連絡会(協石連)の仲間でもある生協都市生活にこの絵画を委ねられ、米沢生協の井上専務がはるばる車で届けに來られました。

布施さんの気持ちを仮設住宅の方々に届けられるよう、今後できるだけ多くのふれあいセンターなどに寄贈していく予定です。

(救援本部事務局)